

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.03-05 NO.026 2011年5月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「負の選択」

橋本幸夫

「もしあなたが左に行けば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう。」(創世記 13 : 9)。

豊かな持ち物のゆえに、物理的にも、また互いの牧者同士の争いのためにも、おいのロトと、たもとを分かつたなければならなくなったアブラハムがロトに向かって提案したのが冒頭のみことばです。

この時アブラハムはロトのおじであり、年長者であるにもかかわらず当然の権利を主張していません。そして、相手に選択権を与えた結果を自分の選択としました。つまり負の選択をしたのです。

さて、日本語でいう〈出来る人〉と、〈出来た人〉とでは、たった一文字の違いですが、内容はかなり異なります。いつもいつも勝っていて負けを知らない人を、私たちは〈出来る人だ〉と評価します。それに対して私たちが〈あの人は出来た人だ〉と言うとき、それは人間的に円熟した人、包容力のある人、負けることの大切さを知り、時に応じて、進んで相手に勝ちを譲ることの出来る人を言うのです。

アブラハムは負の選択により、私たちへのお手本となった真に〈出来た人〉だったといえましょう。

アブラハムはまずロトに良い方を選ばせました。選択の場で特に人と競う場合に、良いほうを相手に譲れるかという問題は小さいことではありません。人の喜びを第一にし、自分はそれに従うという彼の姿勢には大いに考えさせられるものがあります。

このような信仰の態度を消極的であると見てはなりません。目に見えるところで積極的であることは、必ずしも難しいことではありません。しかし彼のような選択をすることにおいてこそ、私たちの信仰は問われその実質があらわにされるのです。

さらに忘れてはならないことは、このような選択の態度こそ、聖書全体が教える信仰のあり方というべきです。神に用いられた人物を見るだけでも分かるが、モーセがそうでありパウロがそうでした。何よりも私たちの主イエス・キリストが終始歩まれたのが、この選択の道だったのです。

信仰は謙遜という道筋を通してこそ、神に喜ばれます。負の選択、〈お先にどうぞ〉といつも言えたらすばらしいですね。